

要請書

環境大臣 小泉進次郎 殿
行政刷新担当大臣 河野太郎 殿
鹿児島県知事 塩田康一 殿
鹿児島県議会殿
奄美大島ねこ対策協議会殿（島内5市町村）
国際自然保護連合（IUCN）殿
国連教育科学文化機関（UNESCO）殿

公益財団法人どうぶつ基金 理事長 佐上邦久
NPO 法人ゴールゼロ 代表 齊藤朋子

旧データに基づく「[奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画](#)」による猫の駆除の中止を求めます。

奄美大島では、2003年から2015年の12年間で、アマミノクロウサギは約10倍に増えました。生態系のバランスをとる生態系保全事業は、常に新しいデータを記録し、取り入れ、刻一刻と変化していく環境に逐一对応しながら実施するのが常です。ところが環境省は、6年前（2015年）に得られたデータがあるのにもかかわらず、また、私たちが計画の修正や更新を再三求めているにもかかわらず、18年前（2003年）の古いデータに基づく「奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画」（2018年7月～）の目標「10年間毎月30頭・合計3,600頭のネコ駆除」に固執しています。

不正の温床「奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画」による猫の駆除は中止し、6年前ともはや新しくもないですが、環境省自らの調査結果に照らし合わせ、不正のない、科学的データに基づくクリアな生態系保全をおこなってください。

根拠となるデータと出典一覧

1. アマミノクロウサギの推定生息数（奄美大島）は2003年（2,000～4,800頭）から2015年（16,580～39,780頭）と12年間で10倍近くまで回復した。この間、32,000頭のマンガースの駆除が行われた。マンガースの根絶が、アマミノクロウサギ激増の原因。

<出典>

アマミノクロウサギの調査結果（環境省）

<http://kyushu.env.go.jp/okinawa/7%E3%80%80houdouhappyou1203.pdf>

「マンガース、根絶へ新計画 奄美大島 駆除20年、最終段階に」南海日日新聞
2021年2月24日 <https://bit.ly/3AQmIkK>

- この12年間、「ノネコ駆除」はわずか13頭。アマミノクロウサギの生息数は10倍近くまで回復。猫が「希少種を含む在来生態系にとって新たな脅威になっている」とまでは言い難い。
- 猫は2100年前の弥生時代には長崎県壱岐島など九州地方の島々に生息していた。「南島雑話」では1850年には奄美に猫が生息していたことが記されている。猫とともに渡来した外来種であるクマネズミ、ドブネズミも生態系に組み込まれながら、現存する在来種も絶滅することなく現在も生息している。猫だけが、在来生態系を絶滅させる「新たな脅威」という指摘には無理がある。

<出典>

「日本に猫がやって来た！ 伝来の新事実、続々と発見」山根明弘 朝日新聞 sippo 2019/04/04 <https://sippo.asahi.com/article/12225441>

- 奄美大島ねこ対策協議会が行ったモニタリング（2020年度）から、奄美大島には約2,000頭のノラ猫が生息し、90%以上がTNR済（不妊去勢手術済み）であることが読み取れ、また今後ノラ猫の数は急速に減少することが推定される。森に侵入する猫の数も、これまでよりも著しく（90%以上）減少することが予想される。将来、猫が在来生態系を絶滅させる「新たな脅威」となることは考えにくい。
- 奄美大島ねこ対策協議会が行ったモニタリング（2020年度）によると奄美市には約935頭（奄美全体では2,586頭）のノラ猫が生息し90%以上がTNR済（不妊去勢手術済み）。

<出典>

モニタリング実施割合及び地区における避妊去勢率等（奄美5市町村モニタリング2020）

※ノラネコ外飼いネコの推定総数2586頭は下記モニタリング結果よりどうぶつ基金が算出した。

全地区
118

市町村	モニタリング実施割合			ノラネコの避妊去勢及び総数と外飼い猫を含む数						推定 総数
	地区数	調査数	調査率	避妊	避妊去勢率	不避妊	計	外猫	計	
奄美	50	17	34.00%	249	90.50%	26	275	43	318	935
大和	11	11	100.00%	204	95.80%	9	213	14	227	227
宇検	14	14	100.00%	80	96.40%	3	83	31	114	114
瀬戸内	25	10	40.00%	218	95.60%	10	228	26	254	635
龍郷	18	6	33.30%	176	90.30%	19	195	30	225	675
計	118	58	49.20%	927	93.30%	67	994	144	1138	2586

6. 奄美大島ねこ対策協議会が 2015 年に行った調査によると奄美市のノラ猫推定生息数は 7,000 頭（奄美全体では 5,000～10,000 頭）。

<出典>

奄美大島ねこ対策協議会からの回答書 <https://www.doubutukikin.or.jp/wp-content/uploads/2019/01/2f9bf7fc46ff7cb52e0cb7323d434f17-1.pdf>

7. 2015 年度から 5 年間で奄美大島のノラ猫の数は TNR により 5 分の 1 まで減少。
8. 2020 年度ノネコ捕獲 21 頭、ノネコ以外のネコ 6 頭（※譲渡認定人 NPO 法人ゴールゼロ調べ）。環境省の目標捕獲数 300～600 頭に対して達成率は 7%。
9. 2020 年度のノネコ 1 頭当たりの捕獲費用は 200 万円以上。
10. 2020 年度のノネコの捕獲計画で誤捕獲された絶滅危惧種、固有種を含む野生生物は 238 頭（アマミトゲネズミ 13 頭、アマミノクロウサギ 2 頭、オットンガエル 1 頭、ハシブトガラス 217 羽、ケナガネズミ 4 頭、ハブ 1 頭）。捕獲ワナの中で死亡している絶滅危惧種も複数。
11. アマミノクロウサギの劇的な増加と生息域の広がりによるタンカンの果樹食害が急増中。農家への助成金やタンカン防護柵の設置など、無意味なノネコ駆除費用の食害対策への転換が期待されている。

<出典>

「タンカンにクロウサギ食害 大和村」南海日日新聞 2018 年 2 月 3 日
<https://bit.ly/3xQQVhR>

12. 古いデータを改めないだけでなく、十分な調査もせず、説明責任も果たさず、1000 年以上も前から奄美の生態系の中に組み込まれ調和し暮らしているネコだけを「新たな脅威」と無理やり位置づける「イメージ戦略」で、その駆除を強行しようとする行為は、ユネスコの理念である「多様性の尊重」、「非排他性」に反する科学軽視の愚行である。

以上